

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2018 助成の概要と推薦理由

助成番号 18-2-1

プロジェクト名 長期療養児向けのスポーツ・レクリエーション
プログラムの展開と人財育成(2)
団体名 特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan
代表者名 北野 華子
所在地 東京都
助成額 138万円
助成期間 2019年4月1日～2020年3月31日
設立年 2009年
URL <http://www.beingalivejapan.org/>



長期療養にある子どもたちは、医療の進歩により入院期間が短縮し、地域で生活を送りながら治療を受け、療養することが可能になってきた。しかし体力面での制限や通院等による欠席により、成長過程に必要とされる経験や学びを得る機会は少なく、同年代と比較しても自己肯定感やコミュニケーション力が育まれにくいことが課題となっている。特に「運動」は、身体面の配慮から機会そのものが限られてしまう。

この団体は、長期療養を必要とする子どもとその家族に対して、国内外で活躍するアスリートと協働しながら、病院内や学校、地域社会において様々なスポーツ・レクリエーション事業を展開している。

前回の助成では、退院後の子ども達を対象に、友人やきょうだいと共に参加できるスポーツ・レクリエーションプログラムを地域で展開し、アスリートと共に運動を楽しむ機会を提供した。

また初級講座となる「人財育成プログラム」を開発し、計13名が受講した。講座内容には座学と現場での実習が含まれており、受講修了後には、プログラムにボランティア参加が出来る「人財」を育成した。

今回の助成では、引き続き、地域プログラムの定着と普及を目指して取り組み、「人財育成プログラム」の中級講座の開発を行う。中級講座では、初級講座の修了生や病弱特別支援学校の教員、教員を目指す学生を主な対象とし、座学と300時間の実習を提供する。受講を通して、実際にスポーツ・レクリエーションプログラムの企画・実施とボランティアマネジメントができる「人財」の育成を目指す。

本助成を通じて、地域社会の中で長期療養にある子どもたちの理解が拡がり、運動が特別なものではなく、日頃から親しむことのできるような環境を整えて欲しい。また「人財育成」で組織体制が強化され、活動が安定して継続できるよう期待する。